

2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月13日

上場会社名 株式会社TORICO 上場取引所 東
コード番号 7138 URL <https://www.torico-corp.com/>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 安藤 拓郎
問合せ先責任者（役職名） 専務取締役管理本部長（氏名） 鯉沼 充（TEL）03-6261-4346
半期報告書提出予定日 2025年11月14日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家及びアナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期中間期	1,435	△24.4	△77	—	△76	—	△84	—
2025年3月期中間期	1,899	0.8	△129	—	△135	—	△139	—

（注）包括利益 2026年3月期中間期 △84百万円（—％） 2025年3月期中間期 △140百万円（—％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	△9.86	—
2025年3月期中間期	△18.62	—

（注）1 当社は2025年8月13日開催の取締役会決議により、2025年9月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に分割が行われたと仮定して、「1株当たり中間純利益」を算出しております。

2 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり中間純損失であるため記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年3月期中間期	1,885	1,171	62.1
2025年3月期	1,473	805	54.6

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 1,175百万円 2025年3月期 804百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	円 銭
通期	3,750	1.0	△5	—	△15	—	△22	△2.91

（注）1 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2 当社は2025年8月13日開催の取締役会決議により、2025年9月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。2026年3月期の連結業績予想における1株当たり当期純利益については、当該株式分割の影響を考慮しております。

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年3月期中間期	11,500,292株	2025年3月期	8,070,500株
-------------	-------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2026年3月期中間期	203,957株	2025年3月期	203,865株
-------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数 (中間期)

2026年3月期中間期	8,575,367株	2025年3月期中間期	7,569,319株
-------------	------------	-------------	------------

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

(決算説明資料の入手方法について)

決算説明資料については、TDnet及び当社ウェブサイトのIR情報 (<https://www.torico-corp.com/ir/>) で同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
（1）経営成績に関する説明	2
（2）財政状態に関する説明	3
（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
（1）中間連結貸借対照表	5
（2）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
（3）中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
（4）中間連結財務諸表に関する注記事項	10
（継続企業の前提に関する注記）	10
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）	10
（セグメント情報等の注記）	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

当中間連結会計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の回復、個人消費の持ち直し等を背景に、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、エネルギー価格や原材料価格の高止まり、円安進行によるコスト増、人手不足の深刻化など、企業活動に影響を与える要因も続いております。加えて、欧米の金融引き締め政策の継続や中国経済の減速、中東情勢をはじめとした地政学的リスクの高まりなど、海外要因による先行き不透明感が依然として残る状況にあります。

当社のECサービスが属する出版業界におきましては、公益社団法人全国出版協会 出版科学研究所『出版指標2025年 秋号』によると、既存調査店における紙コミックス売上(書籍扱い含む)の実売金額は、7月が前年同月比10%減、8月が同4%減、9月が同14%減と大幅な減少が続いております。この減少の背景には、『呪術廻戦』など大ヒット人気長編作品の完結(あるいは最終巻発売)による一時的な市場押し上げ効果の反動や、アニメ化作品が引き続き売れ筋上位に位置するものの、ヒット作品の規模は縮小傾向にあり、メディアミックス効果による販売押し上げの影響も限定的となりつつあることが挙げられます。

市場規模の縮小傾向が継続する中で、各ECモールの営業利益の最大化を目的にポイント・広告宣伝費を一定水準まで抑制したため売上高は減少しましたが、収益性重視の方針のもと販管費を戦略的に抑制し、ポイント販促や送料無料といった販促指標の大幅見直し、また物流倉庫のオペレーション改善等を進めた結果、利益面では改善が進んでいます。

そのような環境の中で当中間連結会計期間の主要KPIとしましては、ユーザー数は13,700千人(目標指標14,200千人)、購買率は0.97%(目標指標1.0%)、購買単価は7,668円(目標指標8,500円)、売上高販売促進費率(※広告宣伝費+購入時付与ポイント)は4.73%(目標指標5.5%未満)となりました。

当社のイベントサービスとしましては、海外から日本へのインバウンド需要の継続が事業を後押ししており、日本政府観光局(JNTO)が発表した統計によると、当中間連結会計期間における訪日外客数は21,112千人となり、前年同期を2,790千人以上上回る結果となり、インバウンド需要が継続して発生している状況を示しております。

当中間連結会計期間ではBLコンテンツ実写映像化作品が減少したことにより、特に店舗売上が低調に推移し、想定売上に届かなかった期間となりました。そのような環境の中、マンガ原作以外でのコンテンツ獲得に注力し、国内外実写ドラマ、育成シミュレーションゲーム、配信関連コンテンツ等とのイベント催事の展開を積極的に行い、売上規模向上と今後の海外事業への展開も可能なIP獲得活動を強化しております。

新規・海外事業としましては、日本発コンテンツの海外現地での人気が続いていることを背景に、海外事業については、2025年2月13日付で東アジアに拠点を持つ有力な海外現地パートナーとの業務提携以降、単発的な売上案件への依存から持続的な成長フェーズへと移行しております。

当中間連結会計期間では中国本土(上海、香港、北京、深圳)やタイ(バンコク)にて海外現地パートナーとの連携によるイベントを開催しており、今後も新規エリア展開と収益性向上による持続的成長を見込んでおります。また、2025年7月には株式会社テイソーとの共同運営店舗「ふるいち×マンガ展」を台湾台北市内に开店しました。マンガ・アニメグッズ等を扱う「マンガ展」とエンタメ・ホビー商品等を展開する「ふるいち」とが融合した展開を行うことで、両社の商材・顧客基盤を活かし、相互客・販売拡大によるシナジーを創出しております。パートナー企業との連携を推進し、引き続き成長余地の大きいイベント及び海外事業への資金とリソースの集中を図ることにより、更なる成長を目指してまいります。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高1,435,120千円(前年同期比△24.4%)、営業損失は77,317千円(前年同期は営業損失129,789千円)、経常損失は76,332千円(前年同期は経常損失135,759千円)、中間純損失及び親会社株主に帰属する中間純損失は84,523千円(前年同期は中間純損失及び親会社株主に帰属する中間純損失139,400千円)となりました。

注. 当社グループは単一セグメントであるため、セグメント別の業績の状況については記載しておりません。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当中間連結会計期間末の総資産は1,885,156千円(前連結会計年度末比411,730千円増)となりました。総資産の内訳は、流動資産が1,819,739千円(前連結会計年度末比411,205千円増)、固定資産が65,416千円(前連結会計年度末比524千円増)であります。主な変動要因は、前連結会計年度末に比べ、流動資産は、現金及び預金が519,968千円増加し、商品が101,109千円減少したこと等によるものであります。

また、固定資産は長期前払費用が1,277千円増加し、差入保証金が828千円減少したこと等によるものであります。

(負債の部)

当中間連結会計期間末における負債合計は714,019千円(前連結会計年度末比46,517千円増)となりました。負債の内訳は、流動負債が449,836千円(前連結会計年度末比51,980千円減)、固定負債は264,183千円(前連結会計年度末比98,498千円増)であります。主な変動要因は、前連結会計年度末に比べ、流動負債は、買掛金が52,269千円及び未払法人税等が3,843千円それぞれ減少し、未払金が3,014千円増加したこと等によるものであります。固定負債の主な変動要因は、前連結会計年度末に比べ、転換型新株予約権付社債が150,000千円増加し借入金の返済により長期借入金が48,500千円減少したこと等によるものであります。

(純資産の部)

当中間連結会計期間末における純資産合計は1,171,136千円(前連結会計年度末比365,212千円増)となりました。主な変動要因は、第三者割当による新株予約権の行使及び転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の行使により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ225,883千円増加したこと及び親会社株主に帰属する中間純損失の計上に伴い利益剰余金が84,523千円減少したこと等によるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ、519,968千円増加し、1,154,850千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において営業活動の結果使用した資金は、27,791千円(前年同期は57,506千円の使用)となりました。これは主に、棚卸資産の減少101,416千円、売上債権の減少5,266千円等による資金の増加と、税金等調整前中間純損失81,707千円、仕入債務の減少52,269千円、法人税等の支払い等による資金の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において投資活動の結果使用した資金は、4,674千円(前年同期は25,054千円の使用)となりました。これは主に、有形固定資産の取得2,886千円、無形固定資産の取得3,288千円、差入保証金の差入1,602千円等による資金の減少と差入保証金の回収2,456千円による増加によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において財務活動の結果獲得した資金は、551,961千円(前年同期は263,794千円の獲得)となりました。これは主に、新株予約権の行使による新株発行299,988千円、転換社債の発行300,000千円による資金の増加及び長期借入金の返済による支出48,500千円による資金の減少等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、当中間連結会計期間時点での進捗状況は当該予想を下回って推移しておりますが、第3四半期の年末商戦を含めた進捗状況を見極めた上で通期業績の着地見込みを判断致したく、2025年5月14日の「2025年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、この業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づくため、実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる結果となる場合があります。修正が必要となった場合には、速やかにお知らせいたします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	634,881	1,154,850
売掛金	207,060	201,957
商品	512,609	411,499
その他	54,912	55,618
貸倒引当金	△930	△4,186
流動資産合計	1,408,533	1,819,739
固定資産		
有形固定資産	0	0
無形固定資産	0	0
投資その他の資産	64,891	65,416
固定資産合計	64,891	65,416
資産合計	1,473,425	1,885,156

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	199,682	147,413
1年内返済予定の長期借入金	97,000	97,000
未払金	91,451	94,465
契約負債	43,006	41,281
未払法人税等	12,434	8,590
その他	58,241	61,085
流動負債合計	501,817	449,836
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	—	150,000
長期借入金	162,683	114,183
その他	3,001	—
固定負債合計	165,684	264,183
負債合計	667,502	714,019
純資産の部		
株主資本		
資本金	366,965	592,848
資本剰余金	700,856	926,740
利益剰余金	△226,526	△311,050
自己株式	△40,602	△40,626
株主資本合計	800,692	1,167,912
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	3,712	3,223
その他の包括利益累計額合計	3,712	3,223
新株予約権	1,518	—
純資産合計	805,923	1,171,136
負債純資産合計	1,473,425	1,885,156

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	1,899,094	1,435,120
売上原価	1,204,125	890,226
売上総利益	694,969	544,893
販売費及び一般管理費	824,758	622,210
営業損失(△)	△129,789	△77,317
営業外収益		
受取利息	119	855
受取配当金	1	1
為替差益	—	2,058
受取手数料	1,454	7,626
その他	2,113	2,722
営業外収益合計	3,688	13,264
営業外費用		
支払利息	3,003	4,840
為替差損	1,416	—
株式報酬費用消滅損	5,102	—
新株予約権発行費	—	5,929
その他	135	1,509
営業外費用合計	9,658	12,279
経常損失(△)	△135,759	△76,332
特別利益		
固定資産売却益	—	647
特別利益合計	—	647
特別損失		
減損損失	—	6,021
その他	—	0
特別損失合計	—	6,021
税金等調整前中間純損失(△)	△135,759	△81,707
法人税、住民税及び事業税	3,640	2,816
法人税等合計	3,640	2,816
中間純損失(△)	△139,400	△84,523
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△139,400	△84,523

中間連結包括利益計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純損失(△)	△139,400	△84,523
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△677	△488
その他の包括利益合計	△677	△488
中間包括利益	△140,077	△85,012
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△140,077	△85,012

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純損失(△)	△135,759	△81,707
減価償却費	18,361	152
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△708	3,189
受取利息及び受取配当金	△120	△856
支払利息	3,003	4,840
固定資産除売却損益(△は益)	—	△646
売上債権の増減額(△は増加)	94,189	5,266
棚卸資産の増減額(△は増加)	△18,404	101,416
仕入債務の増減額(△は減少)	△52,121	△52,269
その他	20,322	138
小計	△71,238	△20,476
利息及び配当金の受取額	120	856
利息の支払額	△3,048	△1,551
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	16,660	△6,620
営業活動によるキャッシュ・フロー	△57,506	△27,791
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,717	△2,886
有形固定資産の売却による収入	—	647
無形固定資産の取得による支出	△19,357	△3,288
差入保証金の差入による支出	△3,238	△1,602
差入保証金の回収による収入	258	2,456
投資活動によるキャッシュ・フロー	△25,054	△4,674
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△54,123	△48,500
転換社債型新株予約権付社債の発行による収入	—	300,000
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	299,988
新株予約権の発行による収入	—	1,778
株式の発行による収入	319,278	—
自己株式の取得による支出	△25	△24
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1,336	△1,282
財務活動によるキャッシュ・フロー	263,794	551,961
現金及び現金同等物に係る換算差額	△43	472
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	181,189	519,968
現金及び現金同等物の期首残高	606,607	634,881
現金及び現金同等物の中間期末残高	787,796	1,154,850

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2025年5月14日付発行の第9回新株予約権(行使価額修正条項付)の行使に伴う新株の発行による払込みを受け、資本金及び資本準備金がそれぞれ150,883千円増加しております。

また、2025年5月14日に発行した第1回無担保転換社債型新株予約権付社債(転換価額修正条項付)に付された新株予約権の権利行使により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ75,000千円増加しております。

この結果、当中間連結会計期間末において資本金が592,848千円、資本準備金が923,541千円となっております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社グループの事業セグメントは、マンガ事業のみの単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。